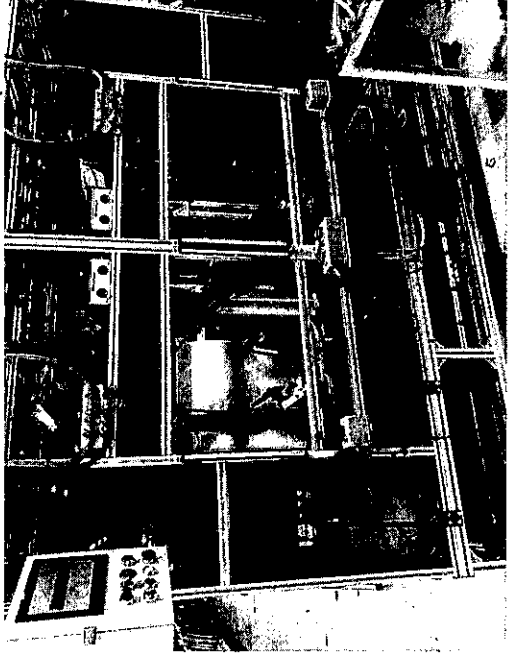


中小に生産自動化設備

TRC高田



ロウ付け溶接装置投入

【浜松】ティアーナルシー高田（TRC高田、浜松市西区、高田修平社長）は、主力の自動車部品に続く事業の柱として生産設備関連事業を育てる。自動車部品の知見などを生かした、中小企業向けロウ付け溶接の自動化設備を2023年春にも開発し事業を拡大する。同社の設備関連は21年9月期で売上高4000万円ほど。24年9月期に主に自動車部品で同6億円を見込む中、設備関連は同3億円に伸ばす計画だ。

TRC高田は生産設備関連では、ロウ付け溶接の自動化設備に力を入れる。同社はロウ付け溶接の自動化のニーズを受け、大手給湯器メーカー向け設備を20年に開発した。同社のロウ付け自動化設備は電動アクチュエーターを駆使し生産設備関連を拡販する

などを組み合わせた構造で、自動車部品で培ってきたロウ付け溶接のノウハウを生かし高品質で効率的に加工できるようにする。こうした実績をベースに、自社のモノづくり技術や仕入れ先のネットワークなどを活用して中堅・中小企業向け設備を開発する計画だ。廉価かつ小型で使いやすいロウ付け溶接

の自動化装置とし、顧客の裾野を広げる。高田社長は「従来設備は2000万円ほどかかるが、工夫して価格を500万円ほどに抑えたい」と語る。まづ22年秋にも自社で導入して実証し、課題などを探る。ロウ付け溶接は職人の高齢化などが課題となっており、自動化を進めることで品質の安定化にもつながるとみる。TRC高田は車体、排気系などの自動車部品や生産設備に加え、鉛バッテリーに比べて環境性能や安全性などに優れる、リチウム鉄リン系複合酸化物バッテリー関連製品の拡販にも力を入れている。

車部品の知見生かす

EV部品・農業に参入

持続可能な事業構造へ転換

メタルアート

メタルアートは電気自動車（EV）用などの車載モーターや産業機械の鍛造部品に参入する。連環や事業化の



貢献を目的に農業分野へ進出する。電動化など自動車業界の大変革を転換を図る。

や働き方改革を受け、持続可能な事業構造へ転換を図る。

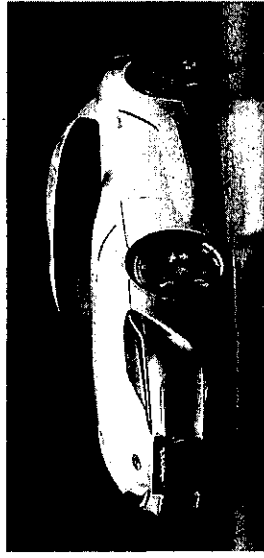
事業構造の変革へ向け2018年に未来創造センターを設け、参入する部品や事業を検討してきた。21年3月には新事業推進室も設置し、構想の具体化を進めている。自動車の

電動化が進むと収益が大幅に縮小するおそれがある。そこで技術力や地域に根差す事業を生かし新分野に挑む。これまでは自動車や建設機械、農業機械、橋梁などの鍛造部品を製造してきた。得意技

を想定する。良品を安価に製造し、電動車や産業機械で新たな事業の柱を築きたい考え。一方、7月には農産物を生産・加工・販売する子会社「メタルヴィレッジ」（滋賀県草津市、大石孝社長）を設立する。

心地アップ 部改良

「スーパアラニ写」から商談受け付け決定だ。全モデルの制御を見直し、高めた。新たにマニュアル手動変速機（Mドライバー）の操縦数に制御する



「インテリジェント・マニュアル・トランスミッション（iMT）」を採用する。足回りには新意匠の鍛造19インチホイールを採用した。スポーク形状や断面形状を見直すことにより軽量化・高剛性化を両立、性能向上と機能美を追求した。



25年に全国100カ所への拡大を目指す。九州電力はウィーブを20年12月に開始し、九州と首都圏で提供してきた。国家資格を有する整備士が47都道府県に300人以上登録するサービスと連携し